

# 胃がん検診は継続して受けることが大切です（X線検査は年一回）

1年間で胃がんにかかる人

12万4,319人

「2019年 全国がん登録」より

1年間で胃がん で亡くなる人

4万2,319人

「2020年 厚生労働省 人口動態統計」より

以下の方は、検診の前にかかりつけ医や  
医療機関でご相談ください  
(検診を受けられない場合があります)

- ・腹痛や胸やけ、吐き気など自覚症状がある方
- ・今年度胃X線検査や胃内視鏡検査を受けた、  
受ける予定がある方
- ・寝返り等の動きがひとりでは困難な方
- ・飲食でむせやすい方
- ・腹部の手術後、はじめてバリウムの検査を受ける方
- ・医師から大腸憩室といわれたことがある方

～がん検診にはメリットとデメリットがあります～

～ メリット(利益) ～

- 1 早期発見・早期治療により命を守る（がん死亡の減少）  
→ 体にやさしい・治る確率が高い・治療費が軽減
- 2 検診で「異常なし」と確認ができ安心

～ デメリット(不利益) ～

- 1 検診ですべての胃がんが見つかるわけではありません（偽陰性）  
→ 画像等の検査で見つけにくい形や場所に発生する場合や  
進行の速いがん
- 2 がんがなくても、検診の結果が「精密検査」となる場合があります（偽陽性）

～精密検査の結果はがん検診の質を保つ精度管理（検診の評価）に活用されます～  
精密検査の結果は、精度向上のため、医療機関と情報連携します  
また、その結果は実施主体（市町村や事業所）と共有します  
（これは個人情報保護法の第三者提供の制限の例外事項として認められています）

これらのことをご理解のうえ、検診をお受けください

## 1 胃 X 線検査 一次検診

発泡剤とバリウムをのむ



量は  
約 150cc {



X線写真を撮る



検査終了後 下剤を  
水分と一緒にのむ



結果は後日郵送されます（2名の医師でX線写真を判定）

ない

### 2-1 異常なし

要経過観察(慢性胃炎など)

気になる症状が…

腹痛・胸焼け・  
吐き気・やせてきた・  
食べ物がつかえる感じ 等



ある

### 2-2 要精密検査

消化器内科または内科で



胃カメラ（胃内視鏡）などの  
詳しい検査を受けてください

胃内視鏡検査とは…

食道・胃・十二指腸をカメラで直接観察して、がんや炎症・潰瘍、  
ピロリ菌感染などの診断をします

病変が疑われる場合は、組織を採取して検査をすることもあります  
あらかじめ検査の前日からの準備が必要になります

詳しくは各医療機関にお問い合わせください

# 胃がん検診後の重篤な合併症について

胃がん検診後は下剤を飲んで、バリウムを当日中に排出してください。

便が出ずにバリウムが腸の中で固まると、**腸閉塞**や**消化管穿孔**（腸に穴が開くこと）が起き、**緊急手術**が必要になる場合があります。

バリウム便は一度で全て出るわけではありません。茶色い便が出るところまで確認してください。

**次のような場合はすぐに医療機関を受診してください！**



- ・ 検診終了後、**吐き気**・**強い腹痛**・**お腹がはる** など
- ・ 下剤を服用しても検診翌日朝までに**バリウム便が出ない**



※ご不明な点、ご心配な点がございましたら**岩手県対がん協会**までお問い合わせください  
TEL. 019-618-0150

## ★検診後のバリウム便排出が とても重要です★

～下剤の飲み方～

- ① **下剤は検診後、すぐに  
多めの水で飲む！**
- ② **朝食は早めにしっかり食べる！**
- ③ **水分を多くとる！**
- ④ **定期的にトイレへ！**



## 岩手県対がん協会の 陽性反応的中度は 全国と比較しても高い

陽性反応的中度：  
精密検査が必要とされた人のうちがんが発見された人の割合

